

やいた八方ヶ原ヒルクライムレース 2019

8月18日(日)、白石りんご園前をスタート・大間々駐車をゴールとする「やいた八方ヶ原ヒルクライムレース2019」が開催されました。沿道では、地元の方が横断幕や手旗で、距離13.4km、平均斜度7.1%の激坂に挑む過去最多の734人の選手を激励しました。

このほか、ボランティアとして矢板・泉中学校、地元企業などから100人を超える方にご協力いただきました。

今大会最速でゴールした長島さんは「矢板市の地域おこし協力隊に応募するきっかけとなったこのレースで、初優勝することができ、とてもうれしい」と感想を話してくれました。



大会結果(市内参加者)

順位	氏名	記録	順位	氏名	記録
男子アスリート	1 長島 教之	40:57	84 西川 正隼	1:02:13	
	19 藤田 友弥	48:45	122 小川 侑一	1:11:43	
	26 荒井 佑輔	51:00	141 橋本 喬	1:21:41	
男子A 高校生以上 30歳未満	34 富本 将史	57:27	男子B 30歳以上 40歳未満	72 前野 秀明	55:58
	50 小堀 健	1:04:38		128 佐藤 大	1:04:32
	62 佐藤 光翼	1:11:30		90 高柳 幸雄	1:11:02
	64 藤本 優翔	1:15:26		126 二渡 基成	1:20:21
			男子C 40歳以上 50歳未満	128 飯塚 範夫	1:21:58
				144 香川 新	1:29:46
			男子D 50歳以上		

第12回 光と音のあんどんまつり

8月24日(土)、川崎城跡公園で矢板の夏を締めくくる「第12回光と音のあんどんまつり」が開催されました。当日は天気にも恵まれ、川崎小学校の児童やボランティアの皆さんが、宮川の両岸に並べた約5,000個のあんどんを点灯させると、幻想的な光が会場を包み、訪れた多くの方たちの目を楽せました。

ステージでは、子どもたちによるよさこいソーラン、フラダンスが披露されたほか、地元有志の方たちによる「あゝ川崎城址」の合唱や野州轟一番太鼓による迫力のある演奏が行われ、会場を盛り上げました。



8/19(月) 生活習慣病を学ぶ

矢板高校で、今年3回目となる市食生活改善推進員主催の「生活習慣病予防のためのスキルアップ事業」が行われました。栄養食物科の1年生38人が参加し、市の保健師・管理栄養士からBMIの計算の仕方や脂質の上手な摂り方を学んだほか、食生活改善推進員と災害時でも活用できるビニール袋での炊飯や、鶏肉のトマト煮などの減塩メニューを実習しました。

参加した生徒は「生活習慣病はだれでもなりうる病気ということを改めて知り、睡眠時間や食生活に気を付けて生活していきたいと思いました」と話してくれました。



8/26(月) 安心して通れる道に

国道461号、主要地方道那須烏山矢板線で、道路を管理する行政(矢板土木事務所・警察署・市)と区長など住民代表の方たちが立ち合い、道路整備の必要性を検証する「とちぎの道現場検証」が行われました。今回は、幅員の狭さや道路形状、道路脇から樹木が繁茂するなどして対向車同士の接触事故が多発する箇所を検証しました。

地元の方からは「ここは、朝夕の交通量が多く危険な場所。車、自転車、歩行者が安全に安心して利用できるよう、保全や整備をお願いしたい」との声がありました。



▲国道461号(倉掛地区)
▲主要地方道 那須烏山・矢板線(成田地区)

9/1(日) 栃木の魅力を発信しよう

文化会館大ホールで、(公社)日本青年会議所関東地区栃木ブロック協議会主催の「とちぎフォーラム2019」が開催されました。今年、栃木の魅力度が全国的に低いことから「いかにとちぎの魅力を発信し、それを持続的な地域経済の発展につなげるか」をテーマに開かれました。

フォーラムでは、パネラーとして登壇した「やいこみゆ」の運営委託を受ける関本氏が「矢板にもまだ知られていない魅力がたくさんある。これからも市と協力して魅力発信に取り組みたい」と力強く話されました。



▲フォーラム前に「歌う海賊団ッ!」のエンターテインメントが行われ、会場は親子連れでにぎわいました。
▲(左から)「歌う海賊団ッ!」主宰 内田 智博氏、渡辺 さちこ県議、(株)フィデス副社長 関本 裕司氏

9/7(土) 旬の果実をカクテルで

山田にあるリノベーション古民家 WASHINKAN で、キャンプをしながら旬の果実を使ったフレッシュカクテルを味わうイベントが開催されました。これは、WASHINKAN がオムニチェアアウトドア&スポーツの漆原さん、地域おこし協力隊員の富川さんと共に企画したもので、市内外から集まった約40人の方たちがお酒とともに秋の始まりを楽しみました。

市内から参加した方は「おいしいカクテルを味わいながら、ゆっくりと過ごすことができました。県外から訪れていた方との交流もでき、良い機会でした」と感想を話してくれました。



▲旬の果実や矢板産の果実を使いカクテルを作る、地域おこし協力隊員の富川さんと夫で元バーテンダーの香隆さん。